

研究課題 (テーマ)		富山県「水と緑の森づくり」の県民による評価と「都市の木質化」の可能性	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	環境・社会基盤工学科	講師	中村秀規
研究結果の概要			
<p>富山県の今後の森づくり、及び森づくりと連携した街づくり（都市の木質化）に対する県民の態度に関するインターネット型社会調査を実施した。富山県民（18歳から69歳）男女1,000人を対象とし、2016年11月に調査票が配信、回収された。県内各市町村の2015年10月の対象年齢人口に比例して、市町村別の割付を行った（富山市399人、高岡市160人、魚津市40人、氷見市44人、滑川市31人、黒部市38人、砺波市46人、小矢部市28人、南砺市46人、射水市87人、舟橋村3人、上市町19人、立山町25人、入善町23人、朝日町11人）。男女、年代に関する割付は行っていない。</p> <p>その結果、今後の富山県における森づくりで拡充される予定の6事業については、いずれも8割から9割を超える回答者が重要と考えていること、8割以上の回答者が県産材によるお祭り時の休憩所・ベンチや県産材を使った地域共同利用施設の利用意向を有すること、そして約6割の回答者が木材利用を通じた市民参加型の街づくりに関心を示していること、がわかった。統計分析によれば、他の要因の影響を除いて、森林ボランティアへの参加意向があるほど、森づくり事業を重要と考え、県産材の利用意向があり、木材利用を通じた参加型街づくりに関心があることがわかった。女性についても同様の傾向があることが明らかになった。</p> <p>市民・地域主導で森づくりと街づくりの連携を進める上で、潜在的森林ボランティア層、特に都市部女性を中心に働きかけ、協働していくことが始めの一歩として適切であることが示された。</p> <p>（詳細については、「富山県の森づくりと街づくりに対する富山県民の態度」（富山県立大学紀要、第27巻、pp.27-33、2017）を参照ください）</p>			
今後の展開			
<p>富山市、射水市との地域連携型教育・研究活動でつながりのある地域の方々と意見交換し、地域の方々の活動に、都市の木質化のアイデアが貢献できる可能性を探る。</p>			